



会長 中村 英隆

理事長 岡部 憲昭

皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は遠賀信用金庫に対し、格別のご愛顧、お引き立てをいただき、誠にありがとうございます。

ディスクロージャー誌『ONSHIN REPORT 2015』が完成いたしました。遠賀信用金庫の活動等についてのご理解を一層深めていただくために、かわいいメチャくんファミリーの助けを借りながら、できる限りわかりやすく作成いたしました。ぜひ高覧賜りますようお願い申し上げます。

さて、わが国の経済は、アベノミクスの浸透に伴い、大企業を中心に業績の改善が見られ、個人消費も徐々に持ち直すなど、緩やかながらも回復基調を辿っています。しかしながら、地域経済は、円安に伴う原材料価格の高騰や人手不足などにより、依然として厳しい状況が続いております。このため、政府は地域経済に好循環をもたらそうと「ローカル・アベノミクス」を提唱し、地方創生に積極的に取り組むこととしています。

そうした中、遠賀信用金庫は、「お客様の役に立つ金融機関、お客様から選ばれる金融機関、地域のベスト金融機関」という経営の基本方針の下、地域に貢献し、地域とともに歩む町内会的金融機関として、様々な取組みを展開してまいりました。

遠賀信用金庫で公的年金をお受取りいただいているお客様を会員とする「おんしん おむすび会」では、会員の皆様に素敵な特典をご用意するほか、旅行をはじめ観劇やそば打ちなど、地域の皆様の「結び」を深める活動を充実させてまいりました。お陰様で、会員数は着実に増加しております。

本年2月には、遠賀4町の行政、商工会、日本政策金融公庫と提携して、「おんが創業支援協議会」を発足させ、官民一体のワンストップ創業支援体制を整備いたしました。創業・開業への一層の支援を通して、地域の活性化に取り組んでまいります。

また、地域の明日を担う若手経営者を育成する「おんしん未来創世塾」では、本年7月に第3期生を迎え、実践的な経営知識の習得とともに、地域の若手経営者同士のネットワーク作りのお手伝いをしております。

平成26年度の決算につきましては、厳しい経済環境下ではございましたが、当期純利益は、過去最高の1,185百万円を計上することができました。ご預金に対するご融資残高の割合である預貸率(平均残高ベース)は60.28%で、引き続き業界平均を大きく上回りました。金融機関の健全性を示す自己資本比率は14.95%と、国が定める基準(4%)の3倍を超えております。以上を踏まえまして、会員の皆様への出資配当金につきましては、本年度も業界の最高水準である8%を維持することができました。

遠賀信用金庫は、「スモール イズ ナイス」の合言葉の下、小さいからこそ可能な「お客様のニーズのきめ細かな把握」「素早い決定」「素早い対応」「手作りの心こもったサービス」を実践し、地域に貢献し、地域の皆様のご期待に応えるべく、役職員一体となって、渾身の努力をする所存であります。

今後とも、遠賀信用金庫に対し、格別のご厚情を賜りますようお願い申し上げ、皆様のご繁栄、ご健勝を心よりお祈り申し上げて、ご挨拶といたします。

平成27年7月